

児童発達支援又は放課後等デイサービス事業に係る自己評価結果公表用

公表日：2019 年 3月 8日

事業所名： どんぐりの里

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
環境・体制整備	1 利用定員に応じた指導訓練室等スペースの十分な確保	・指定基準以上の指導訓練室を確保 ・指導訓練室以外に食堂、相談室、屋外遊戯場、静養室を設ける。	利用人数が多い時は、部屋が狭いと感じた 時がある。 90% どちらともいえない 10% はい	利用者が小学生から高校生と年齢の幅が大きいので、年齢ごとにプログラムを展開することも検討
	2 職員の適切な配置	・基準以上の職員を配置 ・利用者の状況により、配置基準以上の職員を他部署から配置(応援職員)とボランティアを積極的に受け入れる。	はい90% どちらともいえない10%	現体制の維持とボランティアの確保を図る
	3 本人にわかりやすい構造、バリアフリー化、情報伝達等に配慮した環境など障害の特性に応じた設備整備	・施設内バリアフリー ・館内にエレベーターの設置	はい80% どちらともいえない20%	各部屋にピクトグラムの掲示
	4 清潔で、心地よく過ごせ、子ども達の活動に合わせた生活空間の確保	・毎日清掃の実施 ・空気清浄器の活用 ・定期的におもちゃの消毒と日光消毒の実施	はい80% どちらともいえない20%	清掃点検表を設置
業務改善	1 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)への職員の積極的な参画	・人事評価制度の活用 ・毎月2回の会議において、指導法等の意見交換を実施		人事評価者のスキルアップを図る
	2 第三者による外部評価を活用した業務改善の実施	・第三者評価の受診(3回)		4回目の受診を検討する
	3 職員の資質の向上を行うための研修機会の確保	・外部講師による研修(法人全体で年3回) ・外部研修への参加の促し ・研修報告会の実施		各職員の年間研修計画の作成
適切な支援の提供	1 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の作成	・利用者のサービス等利用計画を基に、個別支援計画を作成 ・計画期間内にモニタリングの実施や相談支援事業所から情報を得るようにしている ・必要に応じて保護者からの聞き取りを実施	はい100%	相談支援事業所との連携を密にして情報の提供を受ける
	2 子どもの状況に応じ、かつ個別活動と集団活動を適宜組み合わせた児童発達支援又は放課後等デイサービス計画の作成	個別支援計画において、個別支援の部分と集団の中での支援と目標設定。		
	3 児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画における子どもの支援に必要な項目の設定及び具体的な支援内容の記載	・個別支援計画作成後、保護者への説明		

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容	
適切な支援の提供 t(続き)	4	児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画に沿った適切な支援の実施	・支援計画会議の実施とケース検討会議での見直しの実施	はい80% どちらともいえない20%	継続実施する
	5	チーム全体での活動プログラムの立案	・支援計画会議の実施とケース検討会議での見直しの実施		随時実施しているプログラムに関するアンケートの回数を増やす
	6	平日、休日、長期休暇に応じたきめ細やかな支援	・公共施設を使い社会性の習得 ・放課後デイの保護者との交流プログラムの実施	はい90% どちらともいえない10%	送迎サービスの拡大の検討
	7	活動プログラムが固定化しないような工夫の実施	・週ごとにプログラムに変えている ・季節行事を取り入れている(花見 水遊び クリスマス会等)		随時実施しているプログラムに関するアンケートの回数を増やす
	8	支援開始前における職員間でその日の支援内容や役割分担についての確認の徹底	毎日の職員会議で支援内容の確認を実施		継続実施する
	9	支援終了後における職員間でその日行われた支援の振り返りと気付いた点などの情報の共有化	・終了時にプログラムの振り返りを行う ・特別な行動があった場合は、記録しケース検討会を実施。		継続実施する
	10	日々の支援に関しての正確な記録の徹底や、支援の検証・改善の継続実施	サービス提供記録は、毎日、児童発達管理責任者が確認する。		継続実施する
	11	定期的なモニタリングの実施及び児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の見直し	モニタリング時に大きな成長や後退が見られた場合は、相談支援事業所を交えた事例検討会を行う。		継続実施する

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容	
関係機関との連携	1	子どもの状況に精通した最もふさわしい者による障害児相談支援事業所のサービス担当者会議へり参画	実施してる		継続実施する
	2	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援の実施			
	3	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制の整備			
	4	児童発達支援事業所からの円滑な移行支援のため、保育所や認定こども園、幼稚園、小学校、特別支援学校(小学部)等との間での支援内容等の十分な情報共有	・学校送迎時に担任からの情報提供や相談支援事業所から情報を得ている。		訪問特別支援や保育所等訪問支援の実施を検討する。(実施するための職員体制の整備)
	5	放課後等デイサービスからの円滑な移行支援のため、学校を卒業後、障害福祉サービス事業所等に対するそれまでの支援内容等についての十分な情報提供、	引き継ぎシートと聞き取りによる情報提供を実施している。		法人内の就労支援・地域生活援助事業職員との連携を積極的に図る。
	6	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携や、専門機関での研修の受講の促進	実施している		法人内の児童発達支援センターたんぽぽからの情報提供を受け、研修受講機会を増やす。
	7	児等発達支援の場合の保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、放課後等デイサービスの場合の放課後児童クラブや児童館との交流など、障害のない子どもと活動する機会の提供	法人による地域交流の児童クラブ(チャレンジクラブ)への活動紹介や、学童保育の子どもたちと触れ合う機会の提供を実施している。	交流しているか知らない はい10% どちらともいえない70% 分からない20%	活動の情報提供積極的に行う。
	8	事業所の行事への地域住民の招待など地域に開かれた事業の運営	法人主催による地域交流のお祭り(あいむフェスタ)の運営に関わっている。	あいむフェスタの意義を理解していない・分からない はい10% どちらともいえない70% 分からない20%	は 分 継続実施する

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
保護者への説明責・連携支援	1 支援の内容、利用者負担等についての丁寧な説明	契約時において、重要事項説明書を使い説明している。	はい80% どちらともいえない20%	問い合わせ等があれば丁寧に対応していく。
	2 児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画を示しながらの支援内容の丁寧な説明	実施している。 計画書を示しながら口頭で説明しサインをもらっている	はい80% どちらともいえない20%	問い合わせ等があれば丁寧に対応していく。
	3 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対するペアレント・トレーニング等の支援の実施	実施していない	未回答	保護者の方に研修等の情報提供を行っていく。
	4 子どもの発達の状況や課題について、日頃から保護者との共通理解の徹底	送迎時に聞き取りと、連絡ノートを活用して共通理解を図っている。	駐車スペースが狭く他車の動向が気になり、ゆっくりと話ができないときがあった。 はい90% どちらともいえない10%	継続実施する
	5 保護者からの子育ての悩み等に対する相談への適切な対応と必要な助言の実施	必要に応じて行っている	はい90% どちらともいえない10%	相談記録を活用し保護者の悩みの職員の共通理を図り、支援の一貫性を図るように努める。
	6 父母の会の活動の支援や、保護者会の開催による保護者同士の連携支援	積極的に実施していない	父母の会や保護者会等があることを個人的に知らない。 はい20% どちらともいえない60% 分からない10%	保護者会の組織に向けて検討会の実施を図る。
	7 子どもや保護者からの苦情に対する対応体制整備や、子どもや保護者に周知及び苦情があった場合の迅速かつ適切な対応	苦情対応マニュアルの作成と苦情ボックスに入った内容と対応について玄関に掲示している。苦情については連絡ノートに保護者の記入がある	はい60% どちらともいえない40%	継続実施する
	8 障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮	絵カードの提供と活動ノートに連絡事項や相談内容などを記入している	はい80% どちらともいえない20%	今まで以上に、子どもの特性に合わせた情報提供を行っていく。
	9 定期的な会報等の発行、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報についての子どもや保護者への発信	毎月の『ころころ通信』にて情報提供を行っている	はい90% どちらともいえない10%	ホームページも活用して一、積極的に情報を発信していく。
	10 個人情報の取扱いに対する十分な対応	個人情報保護規定を玄関に掲示と職員に誓約書への捺印を実施している	はい80% どちらともいえない20%	今後も慎重に取り組んでいく。

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容	
非常時等の対応	1	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルの策定と、職員や保護者への周知徹底	緊急時対応マニュアル・感染症対応マニュアル・避難確保計画の策定とマニュアルの読み合わせを行っている。	はい50% どちらともいえない20% 分からない30%	モニタリング時に保護者に対して周知する
	2	非常災害の発生に備えた、定期的に避難、救出その他必要な訓練の実施	避難訓練の実施	はい30% どちらともいえない30% 分からない40%	こころ通信で報告する
	3	虐待を防止するための職員研修機の確保等の適切な対応	虐待対応マニュアルの作成と、年1回セルフチェックの実施と評価を行っている		継続実施と積極的に外部研修の受講機会を増やす努力を行う。
	4	やむを得ず身体拘束を行う場合における組織的な決定と、子どもや保護者に事前に十分に説明・了解を得た上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画への記載	契約書 第4条(サービスの内容)の2に 身体抑制を行わないと明記している		必要となった時は、適切に対応する。
	5	食物アレルギーのある子どもに対する医師の指示書に基づく適切な対応	利用児の健康調査票に食物アレルギーの項目を設け、それに応じて対応している。		継続実施する
	6	ヒヤリハット事例集の作成及び事業所内での共有の徹底	ヒヤリハットマニュアルの作成とヒヤリハットになるまでの『気づきシート』の記入と職員会議で事例検討を行っている		継続実施する

児童発達支援又は放課後等デイサービス事業に係る自己評価結果公表用

公表日：2019年3月8日

事業所名：どんぐりの里

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
環境・体制整備	1 利用定員に応じた指導訓練室等スペースの十分な確保	・指定基準以上の指導訓練室を確保 ・指導訓練室以外に食堂、相談室、屋外遊戯場、静養室を設ける	はい90% どちらともいえない7% 分からない1%	継続実施していく
	2 職員の適切な配置	・基準以上の職員を配置 ・利用者の状況により、配置基準以上の職員を他部署から配置(応援職員)	職員の資格についてしらされていない はい90% どちらともいえない7% 分からない1%	現体制の維持とボランティアの確保を図る
	3 本人にわかりやすい構造、バリアフリー化、情報伝達等に配慮した環境など障害の特性に応じた設備整備	・施設内バリアフリー ・館内にエレベーターの設置	角のある棚がある。構造化ができていない。 はい86% どちらともいえない7% 分からない7%	各部屋にピクトグラムの掲示
	4 清潔で、心地よく過ごせ、子ども達の活動に合わせた生活空間の確保	・毎日清掃の実施 ・空気清浄器の活用 ・定期的におもちゃの消毒と日光消毒の実施	冷暖房を入れるのを渋っている。 はい93% どちらともいえない7% 分からない1%	清掃点検表を設置
業務改善	1 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)への職員の積極的な参画	・人事評価制度の活用 ・毎月2回の会議において、指導法等の意見交換を実施		人事評価者のスキルアップを図る
	2 第三者による外部評価を活用した業務改善の実施	・第三者評価の受診(3回)		4回目の受診を検討する
	3 職員の資質の向上を行うための研修機会の確保	・外部講師による研修(法人全体で年3回) ・外部研修への参加の促し ・研修報告会の実施		各職員の年間研修計画の作成
適切な支援の提供	1 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の作成	・利用者のサービス等利用計画を基に、個別支援計画を作成 ・計画期間内にモニタリングの実施や相談支援事業所から情報を得るようにしている ・必要に応じて保護者からの聞き取りを実施		
	2 子どもの状況に応じ、かつ個別活動と集団活動を適宜組み合わせた児童発達支援又は放課後等デイサービス計画の作成	個別支援計画において、個別支援の部分と集団の中での支援と目標設定をしている	障害特性に合った計画である。 はい90% どちらとも7% いいえ3% 分からない1%	相談支援事業所との連携を密にして情報の提供を受ける
	3 児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画における子どもの支援に必要な項目の設定及び具体的な支援内容の記載	・個別支援計画作成後、保護者への説明		

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容	
適切な支援の提供 t(続き)	4	児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画に沿った適切な支援の実施	・支援計画会議の実施とケース検討会議での見直しの実施	支援計画に沿った支援である はい97% どちらともいえない3%	継続実施する
	5	チーム全体での活動プログラムの立案	・支援計画会議の実施とケース検討会議での見直しの実施		随時実施しているプログラムに関するアンケートの回数を増やす
	6	平日、休日、長期休暇に応じたきめ細やかな支援	・お泊り保育を実施 ・公共施設を使い社会性の習得 ・放課後デイの保護者との交流プログラムの実施	変化に富んだプログラムである。 毎回楽しみにしている。 行かないと言ったことがない。 はい89% どちらともいえない11%	は 送迎サービスの拡大の検討
	7	活動プログラムが固定化しないような工夫の実施	・週ごとにプログラムに変えている ・季節行事を取り入れている(花見 水遊び クリスマス会等)		随時実施しているプログラムに関するアンケートの回数を増やす
	8	支援開始前における職員間でその日の支援内容や役割分担についての確認の徹底	毎日の職員会議で支援内容の確認を実施		継続実施する
	9	支援終了後における職員間でその日行われた支援の振り返りと気付いた点などの情報の共有化	・終了時にプログラムの振り返りを行う ・特別な行動があった場合は、記録しケース検討会を実施。		継続実施する
	10	日々の支援に関しての正確な記録の徹底や、支援の検証・改善の継続実施	サービス提供記録は、毎日、児童発達管理責任者が確認する。		継続実施する
	11	定期的なモニタリングの実施及び児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の見直し	モニタリング時に大きな成長や後退が見られた場合は、相談支援事業所を交えた事例検討会を行う。		継続実施する

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容	
関係機関との連携	1	子どもの状況に精通した最もふさわしい者による障害児相談支援事業所のサービス担当者会議へり参画	実施してる		継続実施する
	2	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援の実施			
	3	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制の整備			
	4	児童発達支援事業所からの円滑な移行支援のため、保育所や認定こども園、幼稚園、小学校、特別支援学校(小学部)等との間での支援内容等の十分な情報共有	・送迎時に保護者からの情報提供や相談支援事業所から情報を得ている。		訪問特別支援や保育所等訪問支援の実施を検討する。(実施するための職員体制の整備)
	5	放課後等デイサービスからの円滑な移行支援のため、学校を卒業後、障害福祉サービス事業所等に対するそれまでの支援内容等についての十分な情報提供、	放課後等デイサービス事業所へは、引き継ぎシートを送っている。		法人内の就労支援・地域生活援助事業職員との連携を積極的に図る。
	6	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携や、専門機関での研修の受講の促進	実施している		法人内の児童発達支援センターたんぽぽからの情報提供を受け、研修受講機会を増やす。
	7	児等発達支援の場合の保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、放課後等デイサービスの場合の放課後児童クラブや児童館との交流など、障害のない子どもと活動する機会の提供	法人による地域交流の児童クラブ(チャレンジクラブ)への活動紹介や、学童保育の子どもたちと触れ合う機会の提供を実施している。	活動しているか知らない はい66% いいえ21% どちらともいえない7% 分からない7%	継続実施する
	8	事業所の行事への地域住民の招待など地域に開かれた事業の運営	法人主催による地域交流のお祭り(あいむフェスタ)の運営に関わっている。	あいむフェスタの意義を理解していない・分からない はい10% どちらともいえない70% 分からない20%	は 分 継続実施する

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
保護者への説明責・連携支援	1 支援の内容、利用者負担等についての丁寧な説明	契約時において、重要事項説明書を使い説明している。	はい93% どちらともいえない7%	問い合わせ等があれば丁寧に対応していく。
	2 児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画を示しながらの支援内容の丁寧な説明	実施している。 計画書を示しながら口頭で説明しサインをもらっている	はい93% どちらともいえない7%	問い合わせ等があれば丁寧に対応していく。
	3 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対するペアレント・トレーニング等の支援の実施	実施していない	理解しがたい行動について説明してくれた はい52% どちらともいえない17% いいえ10% 分からない21%	保護者の方に研修等の情報提供を行っていく。
	4 子どもの発達の状況や課題について、日頃から保護者との共通理解の徹底	送迎時に聞き取りと、連絡ノートを活用して共通理解を図っている。	はい96% どちらともいえない4%	継続実施する
	5 保護者からの子育ての悩み等に対する相談への適切な対応と必要な助言の実施	必要に応じて実施	職員が忙しそうにしている時は言いにくい。悩みは聞いてもらえたが、対策はあまりいただけなかった。 はい66% どちらともいえない21% いいえ7% わからない7%	相談記録を活用し保護者の悩みの職員の共通理を図り、支援の一貫性を図るように努める。
	6 父母の会の活動の支援や、保護者会の開催による保護者同士の連携支援	実施していない	保護者同士の交流を希望したが実施してもらえない はい3% どちらともいえない30% いいえ7% わからない33%	保護者会の組織に向けて検討会の実施を図る。
	7 子どもや保護者からの苦情に対する対応体制整備や、子どもや保護者に周知及び苦情があった場合の迅速かつ適切な対応	苦情対応マニュアルの作成と苦情ボックスに入った内容と対応について玄関に掲示している。苦情については連絡ノートに保護者の記入がある	職員が忙しい時は話しにくいことがある。 はい81% どちらともいえない14%	継続実施する
	8 障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮	絵カードの提供と活動ノートに連絡事項や相談内容などを記入している	研修案内等を掲示してくれる はい81% どちらともいえない14%	今まで以上に、子どもの特性に合わせた情報提供を行っていく。
	9 定期的な会報等の発行、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報についての子どもや保護者への発信	毎月の『ころころ通信』にて情報提供を行っている	通信を毎回読んでいる。 はい87% どちらともいえない3% いいえ3% 分からない7%	ホームページも活用して一、積極的に情報を発信していく。
	10 個人情報の取扱いに対する十分な対応	個人情報保護規定を玄関に掲示と職員に誓約書への捺印を実施している	はい75% ちからともいえない11% 分からない14%	ど 今後も慎重に取り組んでいく。

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容	
非常時等の対応	1	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルの策定と、職員や保護者への周知徹底	緊急時対応マニュアル・感染症対応マニュアル・避難確保計画の策定とマニュアルの読み合わせを行っている。	はい42% どちらともいえない27% いいえ4% 分からない27%	モニタリング時に保護者に対して周知する
	2	非常災害の発生に備えた、定期的に避難、救出その他必要な訓練の実施	避難訓練の実施	はい24% どちらともいえない24% 分からない52%	こころ通信で実施を報告する
	3	虐待を防止するための職員研修機の確保等の適切な対応	虐待対応マニュアルの作成と、年1回セルフチェックの実施と評価を行っている		継続実施と積極的に外部研修の受講機会を増やす努力を行う。
	4	やむを得ず身体拘束を行う場合における組織的な決定と、子どもや保護者に事前に十分に説明・了解を得た上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画への記載	契約書 第4条(サービスの内容)の2に 身体抑制を行わないと明記している		必要となった時は、適切に対応する。
	5	食物アレルギーのある子どもに対する医師の指示書に基づく適切な対応	利用児の健康調査票に食物アレルギーの項目を設け、それに応じて対応している。		継続実施する
	6	ヒヤリハット事例集の作成及び事業所内での共有の徹底	ヒヤリハットマニュアルの作成とヒヤリハットになるまでの『気づきシート』の記入と職員会議で事例検討を行っている		継続実施する